

2014 年第 2 回日本地球化学会評議員会 議事録

日時:2014 年 7 月 15 日(火)~7 月 25 日(金)

方法:メール会議

1. 審議事項

1.1. 衛星観測TFコミュニティへの参加

地球化学会がコミットする意義を説明の上、谷本浩志前評議員に引き続き参加を依頼することとした。谷本さんには会長から説明し、すでに了承を得ている。

1.2. 講師派遣事業の旅費支給

議論の結果、以下のように対応することとした。

- ・まず、現在のWebページの表現を修正し、「交通費は原則呼ぶ側の負担である」ことを明確化する。
- ・一般会計からの支援を求める意見が少数あるが、会計幹事から財政ひっ迫時に支援が困難なことを表明する。
- ・年会の余剰金についての考え方は、おそらく年会当事者経験で温度差がある。貴重な参加費は参加者還元を使うべきで目的外使用は不本意という意見がある一方、年会の会計収支予測は難しく参加費のピッタリ使い切りは困難で、逆に支出が増え繰越金に食い込むリスクもある。現在年会は適切な額の繰越金を引き継ぎ運営しリスクを避けているが、これまでに何回か大きく収支が黒字だった年会の余剰金から講師派遣事業に移譲されたことがある。余剰金を出した年会は決して意図的に貴重な参加費を講師派遣に回そうとして余剰を出したわけではなく、予想以上当日参加者数などで、収支見積もりがずれた結果である。一般論として、年会余剰金の預託について反対は少ない。
- ・余剰金をあてにする問題点として、年会が終わらないことには預託額が分からないことがある。今回の富山年会にも、繰越金を大きく変化させないで翌年に伝えるのがベストとあってある。したがって、余剰金をもらえた時期には講師派遣を頑張るが、そうでないときは控えめに、という柔軟な考え方で進めることにしてはどうか。
- ・講師派遣資金が底をついた場合の一般会計から補てんについては、賛否が両方あるので、9月評議員会で議論することとしたい。

1.3. 鳥居基金の重複受給禁止条項の廃止

・表面的には賛否が拮抗しているため、鳥居基金委員会の方に少し苦勞してもらって、意見を織り込む形で規定の明文化をして、9月評議員会で再度議論することとした。

1.4. 2015 年度年会の開催案

・横浜開催が承認された。9 月評議員会で準備状況を報告する。

2. 報告事項等

2.1. 第 2 回幹事会(6/28)

2.1.1. 名誉会員の選出について

名誉会員推薦委員会から、今年度 3 名をあらたに推薦したいという提案が幹事会 ML にあった(6/6)。名誉会員の増枠についてはこれまでも検討してきたが、財政の観点から進展していなかった。現在すでに 10 名の名誉会員が在籍されているので、内規第 4 条「名誉会員は原則として 10 名を超えない」に厳密に従うと推薦できない。しかし、幹事会での議論の結果、過去にも 13 名にした前例はあること、また今回は「日本地球化学会発足 60 周年」を記念して、推薦することとなった。この 3 名の増枠について評議員会でメール審議した結果、反対意見はなく、承認された(7/3)。したがって、評議員の投票(ウェブ投票)により、名誉会員の選出手続きを行う。投票の締切は 7/25(金)17 時とする。

2.1.2. 日本地球惑星科学連合(JpGU)環境災害対応委員

益田晴恵会員が引き受けることとなった。

2.1.3. 三宅賞の JpGU 移行について

JpGU では、「西田賞」が新設されることとなった。これに伴い、地球化学研究協会では「三宅賞」を JpGU に移行し、JpGU における地球化学に関係する賞として「三宅賞(仮称)」を設置することを検討している。本件について、幹事会での議論の結果、別の団体であるので、本会としては地球化学研究協会の判断を尊重すると回答することとした。

#### 2.1.4. フォトンファクトリー(PF)の要望書について

今年度、フォトンファクトリーでは予算削減と電気料金高騰の影響を受け、例年の半分程度しか運転時間が確保できていない。この状況は我が国の科学技術発展にとって大きな損失であるため、日本 XAFS 研究会の朝倉清高会長が中心となって、ビームタイムを確保するための要望書を取りまとめ、文部科学大臣に提出する準備を進めている。高橋 TF リーダーからの提案により、学会として本要望書に賛同するかどうか、幹事会で議論した。その結果、現在の要望書では、要望団体名リストが個人名か団体名か不明瞭なので、団体名であることを明確化することを条件に本会は賛同することとし、評議員会にメールで承認を得た(7/2)。

## 2.2. 庶務

### 2.2.1. メール審議・調査

- (1) GJ 活性化等についての意見集約(2/24 ML 配信、3/31 締切)
- (2) 学会賞受賞者の承認(4/25ML 承認)

### 2.2.2. 鳥居基金

- ・H26 前期は、申請のあった 3 件(海外渡航 3 件、国内集会 0 件)のうち、2 件が採択された。
- ・H26 後期について現在募集中。締切は 7 月末。

### 2.2.3. GJ 賞

6 月 10 日、GC 会議(サクラメント)において受賞講演と授賞式が行われ、筆頭著者の天川裕史会員に会長から盾と賞状、副賞 33 万円の目録が贈られた。共著者には後日、庶務から賞状を郵送した。

### 2.2.4. GJ 科研費関連

- ・昨年度状況報告書、実績報告書は、豊田前幹事が提出した。
- ・今年度交付申請書は、5 月 9 日に提出した。

### 2.2.5. 広告

- ・本年度の和文誌広告掲載申込は、サーモフィッシャー(1-4 号)、三愛科学(1,3 号)、ヒューリンクス(2,3 号)の 3 社(6 月 27 日現在)
- ・学会 HP への広告掲載は、前年度からの継続 3 社(テラパブ、三洋貿易、PTT)

### 2.2.6. 年会準備関係

- ・日本化学会、日本分析化学会、日本鉱物科学会、日本地質学会、日本質量分析学会から共催承諾済み。
- ・学会賞受賞者への参加登録・受賞講演の依頼済、メダル・賞状の発注予定
- ・名誉会員への招待状発送予定(7 月末)

### 2.2.7. 協賛・共催等の予定

- [共催] 第 58 回粘土科学討論会(主催:日本粘土学会、2014 年 9 月 24-27 日、福島市 A・O・Z)
- [後援] 第 20 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会(主催:日本水環境学会ほか、2014 年 6 月 19-20 日、和歌山県民文化会館)
- [協賛] 第 17 回 XAFS 討論会(主催:日本 XAFS 研究会、2014 年 9 月 1-3 日、徳島大学)
- [協賛] 第 42 回可視化情報シンポジウム(主催:可視化情報学会、2014 年 7 月 21-22 日、工学院大学新宿キャンパス)
- [協賛] NPO 法人地学オリンピック日本委員会(1 口 5 万円)
- [協賛] 日本地質学会第 121 年学術大会(鹿児島大会)巡検
- [共催] レーザーアブレーションワークショップ 2014(主催:レーザーアブレーション分析研究会、2014 年 9 月 3 日、JASIS コンファレンス会場 101 会議室)

### 2.2.8. 各種表彰の推薦

- ・第 11 回日本学術振興会賞(3/10 締切、応募無し)
- ・第 6 回とうきゅう環境財団社会貢献学術賞(7 月末締切、6/27 現在応募無し)

- ・平成 27 年度科学技術分野の文部科学大臣科学技術賞・若手科学者賞(6/25 締切、応募無し)

#### 2.2.9. 会員ご逝去

- ・才野敏郎会員

ML で会員に周知するとともに、ご遺族に会長名で弔電と生花をお送りした(4/20)。

- ・鹿園直健会員

ML で会員に周知するとともに、ご遺族に会長名で弔電をお送りした(4/29)。

#### 2.2.10. その他

- ・国際文献と2014年度業務委託契約書を取り交わした。第1回評議員会での承認を受け、これまで庶務業務であった年会共催申請、名誉会員年会招待状発送、共催等問い合わせ対応、広告掲載企業対応の4件を、3,000円/月増額で3月より追加契約した。
- ・議事録などをEvernoteの共有機能を使って評議員に公開することとした(現在は閲覧のみ)。
- ・鳥居基金実施報告を学会ウェブサイトに掲載することとした。
- ・ジャパンリンクセンターDOI登録に関する覚書を取り交わした(6/5)。
- ・独立行政法人大学評価・学位授与機構から、平成26年度実施分の各機関別認証評価を担当する専門委員に、平成24年度に日本地球化学会から推薦した会員が選ばれた(6/19)。

### 2.3. GJ

#### 2.3.1. 発行・編集状況

2014年vol.48, No.2, No.3は、3, 5月に発行された。6月1日現在の投稿数は337報、うち受理118、却下156、審査中58、AE選考中0、取り下げ5となっている。特集号は、Goldschmidt 2013 “Refractory Grains, Volatiles, and Organic Molecules Inherited from the Interstellar Medium”に基づく特集号(Lydie Bonal, Shogo Tachibana, Henner Busemann)およびGoldschmidt 2014特集号(Noriko Kita, Tomohiro Usui)を予定している。

#### 2.3.2. その他

- ・Goldschmidt 2014にてGJ賞授賞式、受賞講演が無事行われた。
- ・Goldschmidt 2014にてGJ編集委員会を行った。今後も継続して行う予定である。
- ・Goldschmidt 2015のコンビーナーになり、GJ特集号を企画してほしい。

### 2.4. 和文誌「地球化学」

#### 2.4.1. J-STAGE への掲載開始

J-STAGE でのオンライン公開を7月上旬に、48巻1号から開始し、論文へのDOI付加も開始した。発行から2年間は会員のみ公開、それ以降はオープンアクセスとする。

#### 2.4.2. 機関リポジトリでの公開ルール策定

「地球化学」掲載論文を大学アーカイブに公開したいとの依頼があったため、機関リポジトリでの公開ルールを以下のように策定することとした。印刷版 PDF の公開については、国際文献社の了承も得た。

- ・受理が確定したものは公開を認める。
- ・出版後2年以内の論文は著者が保有する著者最終稿のみ公開を許可する。
- ・出版後2年を超えた論文は印刷版 PDF の公開を許可する。

#### 2.4.3. 発刊予定と編集状況

Vol.48, No.2を2014年6月末に発行した。印刷準備中3報、審査中5報、企画総説「地球化学の最前線」3報、総説1報、受賞記念論文2013年分2報、2012-2003年分7報、特集号企画6報を依頼中。

#### 2.4.4. 「地球化学」の活性化について

評議員からの意見を参考に、企画総説の強化や特集号の増加を検討中。

### 2.5. 企画

#### 2.5.1. 2014年度年会について

富山LOCの尽力により準備が進んでいる。6月初めに学会ウェブサイトの運用が開始され、7/9 11:00 時点で受付番号取得済みが78名、要旨投稿が40名弱となっている。日中フォーラムは年会1日目に開催する。市民講演会プログラムの準備も進んでいる。

#### 2.5.2. 2015年度年会について

横浜国立大学の小林憲正会員に大会委員長をお願いし、開催準備が始まった。2015年9月16-18日に開催する計画で進めている。

### 2.6. 広報

#### 2.6.1. 講師派遣事業について

学会から旅費を出してでも継続すべき事業かどうか、メールベースで意見交換を実施した。一定額(年間10万円程度)の講師派遣費用を学会から援助いただけないか、幹事会・評議員会に提案した(審議事項1.2.参照)。

#### 2.6.2. JpGU

- ・展示ブースを展開し、学会員執筆の書籍を販売した。今年は販売著書が減ったにもかかわらず、販売総数や売上ともに昨年と同等であった。
- ・クルーズ船上懇親会に広報委員が参加し、ゴールドシュミット 2016 への適用可能性に前向きな印象を持った。

#### 2.6.3. ゴールドシュミット 2014

- ・展示ブースを展開し、GJのCD-ROMを配布やボールペンを配布した。また、ゴールドシュミット2016の宣伝グッズを配布し、説明を行った。
- ・GJ賞受賞講演の様子を撮影し、学会ウェブサイトにアップした。

#### 2.6.4. 2014富山年会

6月6日に年会ウェブサイトを公開した。ニュースレターにも年会・ショートコースの案内を掲載した。

#### 2.6.5. ニュース配信

- ・メールアドレスが変更になった場合、会員情報の修正だけではすぐにMLに反映されない。
- ・容量制限があるため、できるだけ短く収めていただきたい。

### 2.7. 会計

学会財政状況の暫定版および 2013 年度鳥居基金・ゴールドシュミット基金の決算報告が示された。

### 2.8. 会員

- ・ゴールドシュミット 2014 事務局から会員照会依頼があったので、対応した。
- ・会費未納者に対し、6/30 に督促請求のための通知を送付した。
- ・除名に伴う学会賞の処遇について幹事会に審議案を提出した。審議の結果、本会としても遺憾であるが、規則がないので今回の件に対し学会賞を剥奪することは出来ないとの結論に達した。
- ・5月31日現在の会員数は、計920名であり、昨年比-9名、一昨年比-27名である。

### 2.9. GC

- ・第5回委員会(2/8)、第2回拡大委員会(4/29)を開催した。
- ・ケンブリッジパブリケーションと正式契約を結んだ(4/28)。
- ・サクラメント(GC2014)でGC2016の照会をした。
- ・GS, CPLと会合を持った(6/12)。
- ・第6回委員会(6/28)で、日程、組織委員会要綱等について審議した。

### 2.10. 出版 WG

テラ学術図書出版との GJ 出版契約が 2015 年度までとなっているため、2016 年度以降の出版社について出版 WG で議論を行った結果、すべての委員からテラ学術図書出版との契約延長に賛同が得られた。

2.11. TF1

「地球化学 現状と将来」に掲載する研究機関について、紹介記事を依頼する会員リストを作成した。

2.12. TF2

- ・連合大会期間中に、各分野からの研究提案を発表し議論する将来構想検討会を開催した(4/30)。
- ・年会へ向けて大型プロジェクト提案を公募し、特別セッションを開催する予定である。

2.13. TF3

長期的重点検討課題案をリストアップし、「日本地球化学会 50 年後の夢ロードマップ」の原案を作成した。TF1, 2 と連携をはかりつつ、評議員会での議論を経て年会で広く意見を募り、取りまとめを進めていく予定である。

2.14. 次回幹事会・評議員会予定

- ・ 2014 年第 3 回幹事会:9 月 6 日(土)14:00-18:00 JAMSTEC 東京事務所
- ・ 2014 年第 3 回評議員会:9 月 15 日(月・祝)14:00-18:00 富山大学五福キャンパス

(庶務幹事・山岡香子)